



がっこうだいすき 杉っこ通信

杉の子特別支援学校だより

平成29年度3学期号

2月23日(金)発行

<小学部>

スクールボランティアさん、ありがとう

杉の子特別支援学校のスクールボランティア制度をご存じですか。本校では、現在約15名のスクールボランティアさんが登録、日々の教育活動を支えていただいております。特に学齢的にもよりきめ細やかな支援が必要な小学部では、スクールボランティアさんはかかせない存在となっています。主な活動内容は、校内での学習活動及び、遠足など校外学習での見守り・サポートです。子どもたちも、日頃から校内でしっかり関わってもらっているので、活動内容や場所が普段とは違った校外学習時でも、安心して楽しく活動できている様子が見られます。

11月の電車体験では、平田町駅から電車に乗り、近鉄四日市駅まで行きました。スクールボランティアさんのサポートもあって、馴れない電車にも安全に乗り、四日市駅周辺のお子どもたちの安心安全な活動のためにいつも優しく見守ってくださるスクールボランティアさん、小学部のみんなから…「どうもありがとう！」



電車に乗って四日市まで
行きました(^v^)/



一緒にお買い物♪



フラワーパークで
たくさん遊んだよ！



文化祭の練習、
がんばりました(^o^)



< 中学部 > 加佐登地域の皆様との交流

10月17日 ふれあいカフェ

加佐登地区の「ふれあいカフェ」に2年生が参加させていただきました。

みなさまもよくご存じの「YMCA」のダンスを発表しました。会場の皆さんも一緒に踊っていただいていたととてもうれしかったです。発表の後、手作りのお菓子と飲み物をいただき、皆さんと楽しく過ごさせていただきました。また、参加させていただきたいです。ありがとうございました！

ダンス発表では、会場の皆様も一緒に ♪Y・M・C・A♪



ふれあいカフェでは、最初は恥ずかしがっていた生徒たちでしたが、優しく話しかけていただき、次第に笑顔になりました。



11月24日 いもほり交流会

今年度3回目の白鳥中学校との交流を、加佐登地区のさつまいも畑で行いました。加佐登延命会の皆様にお世話いただき、白鳥中学校の福祉委員の生徒と杉の子特別支援学校中学部の生徒で協力して芋掘りをしました。大きなさつまいもをたくさん収穫でき、大喜びでした。



さつまいもは、焼き芋 スイートポテト ふかしいもなど調理実習をして、おいしくいただきました。延命会の皆様、ありがとうございました！

石薬師分校

『接客・マナー』の授業を紹介します

～社会に出て働くために、次のような力をつける学習に取り組んでいます～

1 コミュニケーション力



適度な大きさではきはきと話をするために、毎回発声練習を行います。どの生徒も元気よく声を出することができるようになってきました。場面に応じた声の大きさや人との距離の取り方についても学習しています。



喫茶サービスを提供するために必要な言葉を覚え、敬語の使い方について学習を行います。お客様に対して笑顔で対応することも大切にしています。



喫茶サービスを行う前には、必ず入念な打ち合わせを行います。その時にわからないことや不安なことがあれば必ず質問するように伝えられています。また、授業の終わりには振り返りを行い、全員がその内容を全体場で発表します。人前で自分の意見を発表する練習となります。

2 臨機応変に対応する力

保護者の方、PTA 役員の方、本校（小学部・中学部）の児童生徒、企業の方など様々なお客様に接客をさせていただいています。その取り組みの中で、役割や接客内容に変更があっても、柔軟に対応する力が育まれています。また、喫茶サービスを提供する中で、お客様が注文したメニューを変更したり、スプーンなどを落としたり、水をこぼしたりするなどの不測の事態にも対応することについて経験を通して学びます。



3 周りの人と協力する力



準備から片付けまで全員で協力して行います。短い時間の中で、他の人と協力しながら手際よく準備をすることができるよう練習を重ねます。自分のやるべき仕事が終わったら、周囲の様子を見て、自発的に他の仕事を手伝うことができるようになってきました。授業のはじめには、身だしなみチェックをペアで取り組み、他の人から見たらどのように見えるのかを学びます。



本校中・高 A 課程・石薬師分校

特別支援学校「ボッチャ交流会」に行ってきました！

平成 33 年、第 21 回全国障害者スポーツ大会（三重とこわか大会）の開催に向けて、県立特別支援学校の生徒対象のボッチャを通じての交流会があり、本校から高校生 1 名、中学生 1 名、石薬師分校（高等部生 30 名）が参加しました。交流会には、6 校で構成された 20 チームが参加し、交流を兼ねて試合をしました。

本校の生徒 2 名は、初めての試合に少し不安そうな表情が見られましたが、真剣に的を狙う表情や上手にできたときの嬉しそうな笑顔もたくさん見ることができました。そして、的となる白いボールに狙いを定めて、的まで 10 センチほどに近づけるなど、日頃の練習の成果を出して次々と得点する姿が見られました。



高等部 神田 尚希

ジャックボールに赤いボールを近づけるように一生懸命頑張りました。準優勝しました。楽しかったです。今度も頑張りたいです。



中学部 中村 圭吾

優勝はできなくて残念でしたが、すごく楽しかったので、またやりたいなと思いました。

防災だより

非常時の備え ～水～

保護者の皆様には、お子様が学校にいる間の災害発生に備えて、3 日分の食料を学校に備えていただいています。今回は、ご自宅の備えについてです。ご自宅にも備えをしている、という方は多いと思いますが、今回はその中でも水について考えてみたいと思います。

1 日に必要な水分量は大人一人あたり 2 リットルとも 3 リットルとも言われています。南海トラフのような大規模な災害が発生した場合、水道が断水し、復旧までには長い時間がかかります。実際、東日本大震災で震度 7 を記録した仙台市では、被災後 1 週間で 4 割が復旧していますが、完全な復旧には 3 週間ほどかかっています。（参考資料：東日本大震災上下水道シンポジウム）



では、災害で断水したときに給水車は来るのでしょうか。亀山市、鈴鹿市が保有する給水車は、それぞれ亀山市で 4 トン車 1 台、2 トン車 1 台、鈴鹿市で 4 トン車 1 台、2 トン車 1 台という状況（平成 30 年 2 月 9 日現在）です。鈴鹿市の人口が約 20 万人（平成 30 年 1 月 31 日現在）、亀山市の人口が約 5 万人（平成 30 年 2 月 1 日現在）であり、合計 25 万人に必要な水が 1



日あたり 500 トン～750 トンにものぼることや、災害で交通網が寸断されること、近隣の市町も同様に被災し迅速な救援が期待できないことを考えると、給水車で全ての被災者に水を届けることはとても困難なことがわかるかと思います。

そこで、ご自宅に日頃から災害時のための備えをしておくことがとても大切なことになってきます。食料を備えておくことも大切ですが、飲料水が十分な量備えられているか、ということもとても大切なのです。

すでに自宅に非常時用の水や食料を備えているご家庭も多いかと思いますが、御家族全員の 3 日分の水、できれば、1 週間分の水がご自宅に確保されているかどうか、を振り返ってみてはいかがでしょうか。まだ備えていないよ、というご家庭は是非この機会にご用意ください。

また、この機会に、学校に備えておいていただいている防災グッズの中に、賞味期限が切れている物がないか、安心グッズが変わっていないか、の確認もよろしくお願いします。

